

# 地域を結ぶ、居場所づくりを

ジンジャークラブは、引きこもりがち  
な障がいのある方と地域を結ぶことを  
目的に設立されました。食事を作った  
り、編み物やバザーに出品するもの  
を作るイベントなど、さまざまな活動  
をしています。

この日は、餅つき。「よいしょー！」と威  
勢のいい声が青空の下に響き渡ると、  
参加者は食い入るように臼の中を見つ  
めていました。ぜんざい、大根おろし、  
のりまき、きなこの4種類から好みの  
食べ方を選択。「おいしい！」と口々に  
頬をゆるめ、グーサインを投げかけて  
くれる人も。老人会の人たちや通りす  
がりの親子も途中から参加して、つき  
たてのお餅をほおぼる貴重な体験に笑  
顔を浮かべていました。

「心地いい居場所づくり」をめざして訪  
れた人たちの意見を聞き、プログラム  
に取り入れているというジンジャーク  
ラブは、障がいのある方だけでなく、ボ  
ランティアや地域の人々も集う場にな  
っています。さらに、今回のような季  
節の行事の他、卓球クラブや農作業な  
ど月々のプログラムでも、地域のボラ  
ンティアと交流を深めながら活動を続  
けています。

## ジンジャークラブ

活動日：月・火・木・金・土曜の10時～15時  
場 所：地域活動支援センター  
ジンジャークラブほっと  
主 催：特定非営利活動法人ジンジャークラブ

## ▲ omusubi ポイント!

「参加者に関心を持ってもらい、次のステッ  
プにしてほしい」と語る施設長の大地あけ  
みさん。地域の人々と自由に交流していて、  
開かれた場所だなと感じました。これから  
もより多くの方々とふれあうことで、地域  
とのつながりが深まっていくに違いありま  
せん。(取材:Aチーム)



ベッタンベッタン、私も餅つきに挑戦!



みんな元気に力強く頑張りました!



あつあつのお餅の形を整えるには、コツが必要



ぐつぐつぐつぐつ、じっくり煮込んでおいしいあんこに



みんなであんこを詰める作業も、手際よく

## 避難ルートは、地域の人と共に

重度の身体障がい者が通う生活介護施設  
が「津波がきたら、職員だけでは避難でき  
ない」と頭を抱え、地域の人々に相談。一緒  
に考案した、車い  
すでの移動に配  
慮した避難ルー  
トは住民にも優  
しいルートに。  
(取材:Cチーム)



### ぶどうの木

施 設：生活介護「ぶどうの木」  
運 営：NPO法人にじのかけ橋  
協 力：深江南町2丁目自治会

## 元気いっぱい、みんなで運動

小学生から中学生まで、障がいのある子も  
ない子も体育館いっぱいを使って運動。た  
くさん走り回り、たくさん汗をかき、身体  
を動かす楽しさ  
を学びました。親  
子で運動できる  
ので思い出に残  
るイベントに。  
(取材:Bチーム)



### 元気アップジム

開催日：平成27年8月27日(木)平成28年1月7日(木)  
開 催：夏休みや冬休みなどに開催予定  
主 催：東灘区社会福祉協議会

## 本音で、分かち合える場所

子どもたちにいろんな経  
験をさせたい、地域の人と  
ふれあいながら育てほ  
しい。「いちごネット」はそ  
んな思いを持った、障がい  
のある子どもたちの親の  
会。子育てに関する相談や  
話し合いを行っています。  
(取材:Aチーム)



### いちごネット

活動日：毎月第4月曜10時～12時  
(※変更になる月も)  
場 所：浜御影地域福祉センター2階  
連絡先：ichigo.net15@gmail.com

## 「omusubi」第3号編集チーム

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <b>A 都築 いく子</b><br>3号の制作にも参加させ<br>てもらって楽しかった!   | <b>神前 早紀</b><br>甲南大学<br>法学部法学科4年       | <b>竹内 南</b><br>甲南大学<br>法学部法学科3年          |
| <b>B 上山 治夫</b><br>できることを精一杯!<br>元気づけられました       | <b>小川 純</b><br>神戸国際大学<br>リハビリテーション学部3年 | <b>岡本 なつみ</b><br>神戸国際大学<br>リハビリテーション学部3年 |
| <b>C 北岡 裕</b><br>取材を通していろいろな地域<br>活動を知ることができました | <b>古瀬 小百合</b><br>神戸大学<br>経営学部4年        | <b>中村 佳菜</b><br>神戸大学<br>国際文化学部3年         |



## 編集後記

「共生」ってなんだろう? そんな思いでスタートした、  
今回の『omusubi』作り。取材へ行くたび、互いの個性  
を認めて尊重し合い、1人1人がキラキラ輝く様子やあ  
たたかい言葉、場の空気に癒されたり、元気づけられる  
ことばかりでした。そんな「地域で共に生きる」様々な  
カタチを、地域の力をみなさんにお伝えしたい。  
『omusubi』は、次号も地域の方々&大学生チームで制  
作します。ぜひ、あなたも私たちと『omusubi』作り  
に挑戦してみませんか。(東灘区社会福祉協議会)



「omusubi」は、赤い羽根共同募金の寄付でつくられています。

## 東灘区社会福祉協議会へのご寄付、ありがとうございました。

(平成27年3月～平成28年2月)

- ・キミ・ロイヤル甲南店様
  - ・古谷恭子様
  - ・佐藤豊子様
  - ・御影本町五六会自治会様
  - ・平澤時代様
  - ・六甲アイランド高等学校様
- (※五十音順)

## omusubi

発行人……社会福祉法人 神戸市東灘区社会福祉協議会  
〒658-8570 神戸市東灘区住吉東町5-2-1  
TEL 078-841-4131(代表)  
FAX 078-841-7999  
メール mail@higashinada-syakyo.or.jp  
http://www.higashinada-syakyo.or.jp/

企画・制作……デザイン・クリエイティブセンター神戸  
取材・執筆サポート……二階堂 薫(コピーライター)  
デザイン……和田 武大(DSIGN HERO)  
写 真……神前 早紀、北岡 裕  
スペシャルサンクス……ご協力くださった皆様

「おむすび」  
神戸・東灘  
2016.3  
第3号

地域の手と手を結ぶ、できごとメディア

# omusubi

東灘区のまちや人、  
心をつなぐできごとを  
わかりやすく伝えるために誕生した  
『omusubi』も、今年で3年目。

今回は、

個性を認めて尊重し合い、  
地域で、共に生きる

をテーマに、  
ぜひ知っておいてほしい  
さまざまな取り組みをご紹介します。



## みんなで作る、みんなが集う地域の「えんがわ」をつくりたい。

ゲストをもてなす場、くつろぎの場として、さまざまな用途で使われ、何もしなくても自然と人が集まる「えんがわ」という場所。この、家の中とも外(地域)とも言えない、境界が曖昧な空間は、家の中にいる安心感と外で得られる開放感や人のあたたかみを同時に味わうことが可能です。

- なんとなく居ることができる
- そこに居るだけでいい
- 干渉されすぎること、強制されることもない
- それぞれに役割があって、活躍できる
- だれもが主役、担い手になれる

そんな、みんなの居場所「えんがわ」が、自分が暮らす地域にあったら素敵です。シニア世代や親子、障がいのある人、大学生など…いろいろな世代や立場の人々が自然と集まり、地域の中でのゆるやかな連携が次々に生まれていくことでしょう。

だれもが安心して暮らせる地域にするために、あなたは今、家族や友人以外とつながる地域の活動に参加していますか。地域や社会との関わりが薄い人も、寂しさや生きづらさを抱えた人も行ってみたいくなる「えんがわ」を自分たちの地域に、みんなでワイワイいながら作り上げてみませんか。

また、地域の財(たから)になっていく、みんなが集う「えんがわ」として活かしたい空き家や空きスペース、空き店舗も募集しています。

この「えんがわプロジェクト」に興味のある方は、こちらまでご連絡ください。

神戸市東灘区社会福祉協議会  
「えんがわプロジェクト」係

電話：078-841-4131(内線411)  
メール：mail@higashinada-syakyo.or.jp

### ▲「omusubiポイント」とは?

「個性を認めて尊重し合い、地域で共に生きる」ための取り組みを外からの視点で見つめると?シニア世代と学生で結成された3つのチームによる、取材を終えての感想や今後の展望など。



絵本の読みかきかせからスタート

## 家でも学校でもない「第三の場所」

「こうべ子どもにここ会」は、東南アジアや中南米などさまざまな国にルーツを持つ子どもたちが日本語を中心に学習する場。1人の生徒を1人の先生が担当するため、子どもたちにとっては何でも相談できる人がいる、勉強+αの場となっています。

にここ会の活動は、日本語の習得支援にとどまりません。地域の小学校と連携し、スペイン語の母語教室を開講して、子どもたちが将来どちらの国でも暮らせるよう、すべての可能性をひらく支援が行われています。また、各国の料理を地域の人々に提供する「キッズカフェ」などのイベントは、子どもたちが自分のバックグラウンドを活かしつつ、地域とつながる時間になっているのだとか。この活動が地域に溶け込んでいることは、地域の住民が時間や空間を共有する地域福祉センターを拠点にしていることからわかります。にここ会をきっかけに、家庭、学校、地域など、子どもたちを包む人の輪がますます広がっていきそうです。

### こうべ子どもにここ会

活動日：毎週木曜・土曜 16時~18時  
場所：本庄地域福祉センター  
対象：小中学生(東灘地域優先)  
主催：こうべ子どもにここ会事務局

### ▲ omusubi ポイント!

生徒と先生が1対1で、最初から最後まで変わらないペアを組むことで何でも話せるパートナーに。勉強だけでなく、友だちや恋愛についてなどいろんな悩みを相談でき、大学生から年配の方まで幅広い意見を聞けるので、これからの人生にプラスになる場所だなあと感じました(取材:Cチーム)



生徒と先生の距離が近い



長い間、同じペアになることも!



受験勉強も手厚くサポート

## だれもが楽しめるスポーツで交流!

地域でパワフルに活動する団体が一丸となって取り組む本イベントは、今年で3回目。福池小学校の高学年の生徒たちがボランティアとして活躍しました。会場ではさまざまなスポーツが体験でき、全国障害者スポーツ大会やパラリンピックの種目も。特にチームライフルや卓球バレー、輪投げは人気があり、障がいの有無に関わらず、子どもも大人も元気いっぱい、笑顔で体を動かしていました。参加者からは「第1回目から、子どもと一緒に参加しています」「もっと広い場所できたらいいな」などの声。子どもたちは「楽しかった!」「的にあたったよ!」と声を弾ませていました。



はじめに、準備体操で身体をほぐす



真剣に!でも楽しみながら

### 第3回 障がい者スポーツ交流会in福池

開催日：平成27年11月23日(月・祝)  
場所：福池小学校3階 体育館  
主催：福地ふれあいまちづくり協議会  
共催：福池小学校および地域団体  
後援：東灘区役所

## 障がいのある人を包み込む、地域の力

今回で6回目を迎えた、スポーツを通じて障がいのある人と地域住民が交流する「元気アップ運動会」。事前の会議では「親が高齢なので、障がいのある子どもの付き添いが大変」「大学生ボランティアに頼んでみよう」「みんなで楽しめるメニューはないかな」「地元のよさこいチームに声をかけてみよう」など、いろいろな意見やアイデアが飛び交いました。当日は、だれもが参加できる競技や魚崎町防災福祉コミュニティのメンバーが腕をふるったカレーを通じて交流が生まれ、神戸国際大学の学生ボランティアや魚崎中学校ハートプロジェクトのみなさんも大活躍。総勢200名関わった運動会は、人と人とのつながりを一層深めるものとなりました。

### 元気アップ運動会

開催日：平成27年9月23日(水・祝)  
場所：神戸市立魚崎小学校 体育館  
主催：元気アップ運動会実行委員会



みんな一緒に低い体勢で頭を守る防災訓練



いろいろな高さのパン食い競走で大盛り上がり

### ▲ omusubi ポイント!

「スポーツを通して、すこやかに暮らせる可能性や生きがいを見だし、交流を広げたい」という障がいのある方々の強い思いを感じました。阪神・淡路大震災の経験から、助け合う心が生まれたのでしょうか。こういう地域がもっと増えますように。(取材:Bチーム)